

2025年度

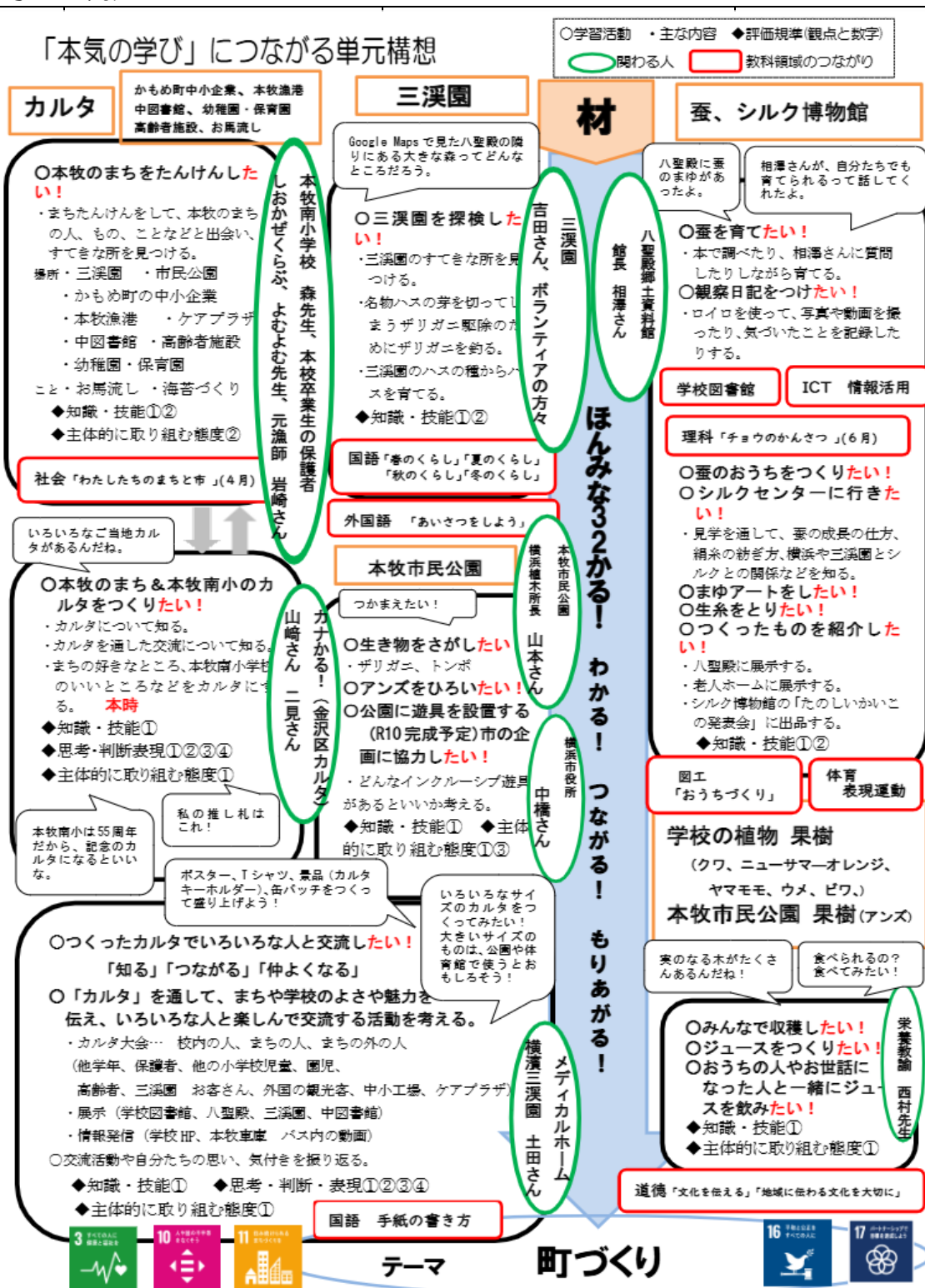
学校名 横浜市立本牧南小学校

対象学年 3年

① 学習指導案

プログラム	No. 5 「地域かるたを つくろう 」
単元名 (全70時間)	ほんみな32かる！ ～ わかる！ つながる！ もりあがる！ ～
学習のねらい	カルタづくりを通していろいろな人と関わり、自分たちのまちや学校にはさまざまな魅力や特徴があること、いろいろな人の思いがあることが分かり、いろいろな人と共に楽しむ方法を考え、実践する。
学習内容	1 ご当地カルタとの出会いから、カルタの魅力を知る。 2 まちたんけん、インタビューやアンケートなどをもとに、まちと学校の魅力や特徴をとらえ、それらをカルタに表す。 3 つくったカルタで、いろいろな人たちと交流する。 4 交流をしながら、みんながまちのことをより分かり、より盛り上がるような交流の仕方を工夫する。
参考資料 準備品 実施場所等	・金沢区ご当地カルタ 「カナかる」

学習の流れ



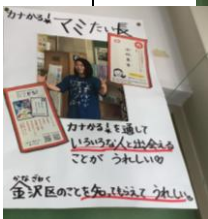
<留意点>

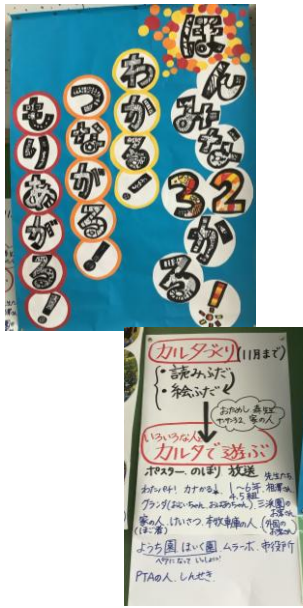
○子どもたちが実際に会ったり、体験したりしたことをカルタにする。

○まちの人や全校児童の思いが詰まったカルタになるようにする。

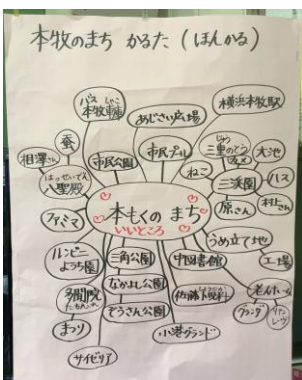
② 事業実施報告書詳細

学校名 本牧南小学校

時間数	場所	概要	活動記録（写真）	対象者の反応
8	教室	○まちたんけんをする ・八聖殿郷土資料館 ・三溪園 ・公園 ・川（汽水域） など ○郷土資料館にあったご当地カルタを、みんなで楽しむ。	 	 
	教室	○今年度の総合的な学習について話し合う。 まちと学校のカルタをつくることに決まる。 ○横浜市金沢区ご当地かるた「カナかる」を作成した方々をゲストティーチャーを招き、カルタの魅力を教わる。 ・「カナかる」カルタ大会を楽しむ ・「カナかる」の作成者の方々に質問タイム	   	「本牧南小のオリジナルカルタをつくりたい！」 「カナかるは、負けても楽しい。」 「カナかるみたいに楽しいカルタを作りたい！」 「早くつくりたい！」 「学校の創立55周年を記念して、55枚のカルタをつくりたい！」 「カルタができれば、おうちの人やいろいろな学年の友達に楽

		○今年度の総合的な学習について話し合い、ゴールのイメージ、めあてを確認する。 カルタ名 「ほんみな32かる！」 ～わかる！ つながる！ もりあがる！～		しんでもらいたいね。」 「これまでお世話になった〇〇さん(まちの人、カナかるの方々、八聖殿の館長さんなど)にも楽しんでもらって、このまちや学校のいいところを知ってもらいたいな。」
23	まち 教室	○まちたんけんをする。 ○文化体験をする。 (盆山作り、蚕飼育など) ↓↑ ○一人ひとりが、発見したことや心に残ったことをカルタに表す。 「～へ行ってみたい！」 「～をやってみたい！」 という子どもたちの思いからまちたんけんや文化体験を続けながら、その都度、発見したことや心の残ったことをカルタに表現して記録していく。	 盆山づくり 八聖殿	 三溪園蓮池
			 カイコ飼育	

		○横浜市金沢区ご当地かるた「カナかる」ゲストティーチャーに困っていることを相談したり、アドバイスをもらったりする。 ○まちの人や保護者に、まちの魅力をインタビューをする。 ○全校児童と先生たちに、学校のよいところをインタビューをしたり、アンケートをとったりする。	  	「自分たちが発見したことだけでなく、まちの人やおうちの人、他の学年や先生たちにもこのまちや学校のよいところ、好きなところを聞いてみよう。」 「いろいろな人がこのまちは『やさしいまち』『きずながある』と言っているね。」 「いろいろなまちの人と知り合えてうれしい。この前、学校の帰りに会ったから、あいさつしたよ。」 「この学校や子どもたちのことを大切にしてくれている人がたくさんいるって、うれしい。」
25	教室	○各自でつくってきたカルタをみんなで読み合い、材をまとめたり、分類したりする。		

		○友達とアドバイスし合いながら、読み札、絵札をかく。 ○カルタの箱のデザインを考える。	 	「言葉は短くした方が、カルタっぽいよ。」 「！をつけると、もっと気持ちが伝わりそうだよ。」 「〇〇と〇〇の言葉を入れ替えた方がいいね。」 「カルタの読み札に説明もつけられたらいいな。」 「カルタにQRコードをつけて、読み込むとそのカルタに書かれているところ(施設)のホームページにつながるといいね。」
		○11月末、印刷会社に出す。 (約3週間)  ○12月初旬、印刷会社からカルタが届く		
45	教室 ケアプラザ 他校	○カルタ大会の準備をする。 ・FMマリンラジオで「ほんみな32かる！カルタ大会」の宣伝		

		○カルタ大会でカルタの紹介の仕方を考える。 ・各自の押し札紹介 ・カルタができるまでの4月からの総合的な学習のムービー発表 ・大型カルタ掲示	○カルタ大会を盛り上げるのぼり作り 	「カナかる！みたいなのぼりを作りたい！」
		○カルタ大会を盛り上げるために、役割分担をする。 ・読み札を読む役 ・盛り上げ役 ・読み札の内容の説明役 ・一緒にカルタを楽しむ役 ・読まれた札をモニターに映し出す役	○掲示用カルタ 	
		○カルタ大会の後に、参加者に感想をもらう。	○名札づくり（自分の押し札を名札にする）	
		○カルタ大会が修了後に振り返りをし、次のカルタ大会にいかす。	・中区ブックフェスタでまちの人たち、おうちの人たちとカルタ大会 	「みんなが楽しんでもくれてうれしい！」
		・校内の他学年と 		「〇〇のカルタを読んだ時、『え！知らなかった～！』って言っていた人がいたね。まちのことがわかった！ってということだね。」 「カルタ大会に来てくれた大人どうしが名刺を渡し合って、楽しそうに話していたよ。ほんみな32かる

			 ・まちの幼稚園・保育園児とカルタ大会（５園）   ○授業参観でうちのひとカルタ大会 ○地域ケアプラザの高齢者の方とカルタ大会  ○地域の方、校内の先生方とカルタ大会	！を通して、つながったという感じがしたよ。」 「緊張して、読み札を読む声が小さくなったから、今度ははっきり読みたい。」 「盛り上げ役もやってみたいから、次のカルタ大会は役割をみんな交代してみたらどうか。」 「〇〇さんは、小さい子と遊ぶときは、手加減してあげていたよ。すごい！」 「いろいろな人が、ほんみな３２かる！を楽しんでくれてうれしい。」 「合計４３１人の人にカルタを楽しんでもらった！すごい、大成功！」 「来年も、またこのカルタをやりたいし、みんなが楽しんでくれるといいな。」
--	--	--	--	--

③ 実施内容について

④

(1) 実施にあたり工夫した点

●子どもたちがカルタに興味をもつ種まき

教室にご当地カルタを置いておいたり、まちたんけんで郷土資料館に行く時にカルタを目立つ場所に展示してもらったりするなどした。

●他教科との関連で総合的な学習をスタート

3年生の子どもたちは総合的な学習がはじめてのため、自然な流れで材に出会い、興味をもつことができるように、社会科の「まちたんけん」とからめて、学習がスタートできるようにした。

●本物との出会い&プロとの出会いづくり

横浜市金沢区ご当地カルタ「カナかる」が、子どもにとって親しみやすく、楽しいカルタであること、カルタ大会のイベント運営の仕方も魅力的であったことから、ゲストティーチャーとしてかかわっていただくことにした。

●カルタの中に入れ込みたい「人」の思い

カルタの中にまちの行事や場所だけでなく、まちの人の思い、学校を支えてくれる人たちの思い、全校児童の思いなどを入れられるように進めた。まちたんけんの中で出会う人に話しかけたり、まちの人たちへのインタビューできる時間を設定したりする中で、人との出会いを大切にし、心の通った関係を築くことができるようにした。

(2) 実施にあたり苦労した点

・カルタを作成することがゴールではなく、作成したカルタでいろいろな人たちと交流することをめざすために、11月中にカルタ作成を完了→印刷会社に出す→12月上旬にカルタ完成とした。このスケジュールで進めたことで、多くの人たちとカルタ大会を楽しむことができたが、カルタを作成する時期はタイトなスケジュールだった。

(3) 児童の反応

・自分たちの目で見えたこと、いろいろな人たちと出会ったこと、まちの文化体験をしたことなど本物体験から、まちや学校のよさを実感することができた。

・カルタが印刷会社から届き、みんなで段ボールからカルタを取り出す時は、大興奮で喜びだった。

・1人3枚のカルタを担当した。自分たちが一生懸命に手がきでかいた絵札と読み札に愛着をもち、自信をもってカルタを紹介する姿が見られた。カルタ大会を繰り返す中で、ほとんどの子どもたちが55枚の札を暗記するようになった。

・カルタの紹介およびカルタ大会を通して、まちの人、保護者、園児、高齢者、近隣の小学生など、400人以上と交流する機会を得た。子どもたちは、カルタを通してさまざまな人と知り合い、共に楽しむ経験を重ねる中で、地域とのつながりを実感していった。こうした交流の積み重ねにより、「分かる・つながる・もりあがる」という学びを実感し、まちを愛し、大切にしようとする思いを育むことができた。 ・子どもたちがまちの人たちと関わることを積み重ねる中で、顔や名前を覚え、学校外で会っても名前を呼んで挨拶をしたり、話をしたりする間柄になっていった。
(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化 ・学習が進むにつれて、子どもたちとまちの人が、うれしそうに握手をし合ったり、手を振り合ったり、話をしたりするなど、つながる姿が見られた。教師が子どもたちとまちの人をつなぐ役割であることの大切さを再認識できた。 ・子どもたちと一緒にインタビューなどをする中で、まちの方々が学校に協力してくださること、子どもたちにあたたかい思いをもってくださっていることを改めて実感し、すばらしいまちとまちの人たちに支えられていることを改めてありがたく思った。
(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕 ・カルタの活用 今年度、作成したカルタを使って活動してきたが、次年度以降も活用できるような場面を考えていきたい。カルタの活用としては、学校全体の中で異学年交流、幼保小交流、クラスレクとして活用したり、年度はじめの総合的な学習のスタートとしてまちの材に触れるために活用したりすることなどを考えている。